

シンポジウム 15：在宅医療の希望を叶えるための退院支援のあり方

演題名	入院前から始める退院支援
-----	--------------

概要

東海大学医学部付属病院では、急性期重症患者の治療に特化した、高機能・高回転の病院を目指す中、患者側の早期退院に対する抵抗感と不安感を軽減し、患者の流れをよくする仕組み作りが必要となった。Patient Flow Management(以下 PFM)システムは当院のオリジナルシステムで2006年新病院の開設と同時に導入された。

PFMとは看護部、ソーシャルワーカー、医事課、医療連携室等の入退院に関連する部門がひとつの空間に集結し、早期から患者の身体的・社会的・精神的側面をとらえ、患者の入院前から退院までを支援するシステムである。病院のコンセプトである「提供する医療の質が高い」「時間の無駄がない」「患者の安心感」の実現のためには、PFMの存在は不可欠である。

入院コーディネーターである看護師は入院予約をした患者と事前面談を行い、患者の基本情報・事前検査の進行などを確認し、入院後に患者が安全で適切な検査や治療を予定通り行うことが出来るように調整すると共にソーシャルリスクの把握をする。また事前面談で治療の経過について分りやすく説明し、患者・家族に入院前から退院への準備を始められるように支援している。

PFM看護師のうち16名は入院コーディネーターとして入院前の患者・家族と関わり、情報を事前に把握し、リスクアセスメントを行い入院病棟に情報提供をしている。4名は退院調整看護師として、入院コーディネーターからの退院リスクアセスメント情報に基づいて、早期に支援を開始すると共に、病棟における退院支援にかかりわり、地域の訪問看護ステーションなど地域と連携しながらスムーズに退院や転院が出来るように活動を行っている。

入院前から準備をすることが出来れば、準備期間も長く、退院時の不安も少なくなり、早期退院へつなげることが出来る。このシンポジウムでは実際の私たちセンターの看護師活動を紹介する。